

日時	令和5年6月26日(月) 17時00分～19時00分
----	----------------------------

出席者	代表世話人	牧野精工(株)	牧野	代表取締役社長
	副代表世話人	(株)柳澤製作所	阿南	社長付顧問
	副代表世話人	丸山塗装工業(株)	丸山	代表取締役社長
	世話人	(株)大和真空	西口	代表取締役社長
	世話人	(株)カタ技術	片山	代表取締役
	世話人	(株)一瀬製作所	一瀬	代表取締役
	世話人	大日運輸(株)	石井	代表取締役
	世話人	(株)イーエーエスジャパン	鶴	代表取締役
	世話人	北次(株)	北次	代表取締役
	世話人	(株)銀扇	小林	代表取締役
	世話人	マルイチエクソム(株)	新谷	代表取締役
	世話人	(株)大京精研	木村	常務執行役員
	世話人	(株)ティエラ	藤井	代表取締役
	世話人	栄光技研(株)	平岩	常務取締役(リモート参加)
	世話人	門真市	高田課長、吉田課長補佐、 児島主任、川田係員	
	世話人	門真市中小企業サポートセンター	菅沼 業務管理責任者 辰巳、足立	
	事務局メンバー	牧野精工(株)	石森 大阪工場長 佐々木 技術部長	
(計23名)				

場所	門真市役所 本館 大会議室
----	---------------

議事概要	<p>1. 代表世話人挨拶 門真ネットの第11期2回目開催となるが、門真まつりが近づいているので、1か月前倒しで開催する。門真まつりに特化して具体的な内容について話を進めてゆきたい。</p> <p>2. 議案</p> <p>(1) こどもとの交流活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/4に子供との交流会として絵画教室を実施。18社、42万円の寄付があり、子供たちが喜んでいたのでイベントとしては成功となった。今後、お披露目会も開催予定で時間のある方は是非参加をお願いしたい。 ・一方で、世話人会の事前の了承がない状態での協賛となったこととお詫び。1年以上前から企画していたが、施設のスケジュール上、実施できる日が限定され、急な実施となってしまった。産業振興課として、今回のやり方は不行き届きで反省し今後は世話人会の事前了承のもと進めていく。 <p>(2) ふるさと門真まつりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・門真ネット会員の更なる連携と門真ネットの認知を高めることを目的に実施する。そして子供たちに喜んでもらって、人材確保など将来につながる活動にしたい。 ・実行推進委員会の打ち合わせでリーズナブル且つ効果の高そうな「綿菓子」の販売を
------	---

する方向で検討している。

(実施予定説明)

- ・綿菓子機を複数台レンタル。供給電力は1500Wで2口。場合により発電機の準備も必要。
- ・ブースは2間×3間の広さ。テントあり。レンタルの机椅子もある。照明はナイター設備の光が明るい。
- ・提供方法は“割りばし”“袋”“カップ”のいずれかで検討。
- ・広報用「うちわ」を制作し、特設サイトへのQRコード、協賛企業を印刷する。
- ・門真ネットのホームページ内に協賛企業名、ガラスケのデザインを載せた門真まつり特設サイトを制作。サイトには、“門真まつり開催時に配布する「うちわ」、綿菓子の容器となる「カップ」にQRコードを付けアクセスできるようにする。ウチワやコップは1週間もあれば制作可能。
- ・販売時に特設ページを見せたら半額提供が可能にする。

(意見等)

- ・みんなで助け合わないと人が足りないので、スタッフとして協力をお願いしたい。足協賛企業にも依頼して集めてゆく予定に。
- ・綿菓子づくりに詳しい人間がいないので、投入するザラメの量、お渡しする綿菓子の大きさ、オペレーションの速さなど、不確定の要素が多いので、協力者を募り、まつり前までに予行練習をしておきたい。
- ・素人で綿菓子を作った場合、1個当たり5分から10分くらいかかってしまうことが予想されるため、作り置きが理想。ただし作り置きの場合、真夏の気温に綿菓子が耐えられるか不安。前日の涼しい部屋でやる必要がある。しっかり封をすれば何とかなるかもしれないが、予行練習してみないとわからない。
- ・当日は忙しくなることが予想されるため、“ザラメ入れ役”“販売役”“巻取り役”等分業してやったほうが良い。
- ・お釣りもある程度準備しておく必要がある。
- ・行列ができた場合、酷暑ということもあり、熱中症が心配。
- ・時間制のチケットを配って混雑を回避できるのでは。
- ・綿菓子を子供に作ってもらうことも一案。その方が回転が速い。
- ・販売価格については、協賛金の金額によって変わると思うので現時点ではまだ決められない。人工についても機械の数、自分が作るor子どもが作るなどによって変わってくる。自分で作る場合は10人や20人では足りない。
- ・看板やPOPも必要。登りもあればなおよい。

⇒綿菓子の提供について了承。7月初めに委員会を開催し、詳細を詰める。次回の世話人会ではスキームやアイテムの最終案確認をするイメージ。

⇒ホームページについては片山世話人が作った案をサポートセンター菅沼管理者に送付し更新する。

●協賛金について

(意見等)

- ・協賛金は1口一万円として、7/10までに回収。綿菓子機械のレンタルなどお金がかかる為、少なくとも30-40万円は集まってほしい。

- ・回収役は各町内会長が行い、町内会長は各企業先までお伺いし、現金で回収。
- ・協賛金の“渡した・渡してない問題”を防ぐために領収書を用意し、領収書・領収書控えを双方で管理することによってトラブル回避。
- ・協賛金は今回の取組の原資として使用するが、余った協賛金は売上と併せて門真市に寄付を行う。
- ・その際は企業から門真ネットに対しての会計、イベント自体の会計、市から門真ネットに対しての会計など必ず管理しておく必要があります。
- ・綿菓子とは別に「まつり本体」への寄付は、振込先があるので、集金とは別に企業自身で直接振り込む。
- ・基金については基本的に既存の事業に充当するが、「こういうふうに使ってもらいたい」というものがあれば交渉のよちがある。学校に、これを買ってほしいと伝えれば可能性がある。
- ・寄付についてはできるだけ形の残る方が良いのではないかと。例えば跳び箱をワンセットを寄付で買ってもらい、門真ネットのシールを貼るなど。
- ・寄付先も1個に決めなければならないわけではない。
- ・「門真のこともたちのために」が基本的な考えであるので、来年の門真まつりに使ってくださいというのも手。

⇒各グループ長は7/10までに協賛企業と参加スタッフをとりまとめ、一瀬世話人に集約する。集金した現金も同様。

協賛企業名はウチワ、ホームページ作成のため片山世話人に共有。

⇒収支報告書等の保管書類は産業振興課で保管を検討。

●打ち上げについて

門真まつりが終わったのち8/6に打ち上げ。(協賛金とは別会計)

●次回世話人会について

来月も世話人会行う。来月の世話人会では、本日挙げた課題が解決され、模擬店を行う為の確認の場となるようにする。来月の世話人会の日程18の週、24の週で追って調整こととする。

(5) 新入会企業について

- ・株式会社メニ・テック、株式会社松下縫工所の2社からの入会申込みを報告。

⇒本件承認。紹介したい企業があれば市へ情報提供。

(6) その他

- ・エリアリノベーションの取組について情報提供

(3)ものづくり町内会について

(4)各部会の活動報告について

は時間のため審議未了。

閉会

以上

